

2025 年度  
学校自己評価報告書

2026 年 4 月

公益社団法人 日本看護協会  
看護研修学校

# 目次

- I. 公益社団法人日本看護協会看護研修学校 概要
- II. 公益社団法人日本看護協会看護研修学校 学校評価会実施要項
- III. 学校評価会 構成員
- IV. 学校自己評価

## I. 公益社団法人日本看護協会看護研修学校 概要

### 【沿革】

- 1972年 看護研修学校創立（東京都渋谷区）
- 1974年 学校教育法に基づく各種学校に認可
- 1983年 専修学校に認可
- 1987年 清瀬市に看護研修学校移転
- 1996年 認定看護師教育課程教育機関となり認定看護師教育開始
- 2000年 認定看護師教育を1年の「専修学校」として再編成
- 2015年 厚生労働省より特定行為研修指定教育機関として指定
- 2016年 認定看護師を対象とした特定行為研修開講
- 2020年 特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育B課程5学科開講  
在宅領域の看護師を対象とした特定行為研修開講

### 【学校の概要】

看護研修学校には認定看護師教育課程、教育研究部、総務管理部、図書館があり、看護職が生涯にわたり高い専門性をもち、幅広い分野で活躍できるよう様々な研修を提供している。

### 【学校の教育理念・目的・特色】

#### ◆教育理念

日本看護協会看護研修学校は、変化する保健医療福祉環境のなかで、「患者中心の志向」「知識と経験を融合した高い看護実践力」「専門性の追求と臨床に役立つ人材」をもとにして、特定分野における質の高い看護ケアを提供する認定看護師教育を目指している。

#### ◆教育目的

特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて看護実践ができ、他の看護職者のケア技術の向上に資する認定看護師を育成することを目的としている。

#### ◆特色

- ・ 認定看護師教育専門課程は、クリティカルケア学科、皮膚・排泄ケア学科、感染管理学科、糖尿病看護学科、認知症看護学科があり、特定行為研修を組み込んだ教育課程となっている。
- ・ 附帯教育として認定看護師と在宅領域の看護師を対象とした特定行為研修を実施している。

## II. 公益社団法人日本看護協会看護研修学校 学校評価会 実施要項

学校評価会においては、公益社団法人日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程細則の第8章にて規定されている。

### 1. 目的

本校は、学則第5条により、実施する教育の一層の充実を図り本校の目的および社会的使命を達成するため、本校における教育活動等の状況について自ら点検および評価を行う。

学校の目標達成状況等を検証することを通じ、学校の現状と課題を明らかにし、教育活動その他の学校運営の改善を図ることを目的として学校評価会を設置し、学校評価を行う。

### 2. 任務

学校評価会は、次の事項について審議する。

- 1) 学校評価に関する事項
- 2) 学校評価結果の公表に関する事項

### 3. 構成員

- 1) 校長
- 2) 認定看護師教育課程長
- 3) 認定看護師教育課程課長
- 4) 総務管理部長
- 5) 教務課長
- 6) 専任教員 2名以上
- 7) 有識者 2名以上

専任教員および有識者は校長が選任する。有識者の任期は2年とし、再任を妨げない。

### 4. 学校評価会の開催

- 1) 校長が招集し、その議長となる。
- 2) 学校評価会の決議は、構成員の過半数が出席し、出席者の3分の2以上をもって決する。
- 3) 学校評価会は、原則として非公開とする。

### 5. 学校評価の概要

#### 1) 評価方法

- (1) 校長、認定看護師教育課程長、認定看護師教育課程課長、総務管理部長、教務課長、専任教員、有識者は、年1回、学校評価を行う。
- (2) 学校評価には年次報告資料（シラバス等カリキュラムに関するもの、学生講義評価アンケート、修了状況、収支等）を用い、以下の評価項目に沿って教育活動並びにその他学校運営について評価する。

## 2) 評価項目

- (1) 教育理念
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動・教職員の育成
- (4) 学修効果
- (5) 学生の支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献

## 3) 結果と公表

- (1) 学校評価会の構成員が報告書を作成、校長へ提出し、校長は会長へ報告する。
- (2) 校長は、学校評価をホームページ等、適切な方法を用いて公表する。

## 6. その他

- 1) その他、学校評価会に関し必要な事項は校長が定める。

## Ⅲ. 学校評価会 構成員

吉村 浩美	校長
渋谷 智恵	認定看護師教育課程 課程長
樋口 ミキ	認定看護師教育課程 課長
森林 朋英	認定看護師教育課程 認知症看護学科 教員
齊藤 麻知子	認定看護師教育課程 クリティカルケア学科 教員
伊藤 達也	総務管理部 部長
湯本 玲子	総務管理部 教務課 課長
高村 昭輝	富山大学 学術研究部医学系医学教育学講座 教授
瀬戸 奈津子	関西医科大学 看護学部・看護学研究科 教授
松本 直子	図書館 館長
関 幸代	総務管理部 管理課 課長

## IV. 学校自己評価

公益社団法人日本看護協会看護研修学校では、教育機関の質保証や向上に資する取り組みとして 2021 年から学校自己評価を実施し、2022 年度からホームページで「学校自己評価報告書」を公表している。

### 1. 2025 年度重点目標

- 1) さらなる教育内容・体制の質向上を目指す（選ばれる教育機関であるために）
  - ① 全学科が定員を超えた入学希望者を定員以上確保する
  - ② 学生が学習に集中できる教育体制および環境整備を行う
- 2) 卒業生の活動支援と動向把握
  - ① 知識・技術の維持・向上への支援
  - ② 卒業生の活動の場を提供する

### 2. 総括

2025 年度重点目標として、さらなる教育内容・体制の質向上を目指した取り組みを行い、入学希望者は定員数 150 名に対して 317 名の応募があり受験者 311 名、合格者 146 名（倍率 2.13 倍）であった。教育内容や体制では、入学時の経験やレディネスが異なるため、個別、ゼミ、遠隔ワークなどを用いて認定看護師としての思考力を育くんだ。さらに、実践的な職業教育となるよう医療安全、チーム医療論は 5 学科合同実習とし学生からの評価は高かった。学習に集中できる環境整備として、新しい学習支援システム（LMS）を導入し活用しやすいよう改修を加えたため遠隔での支援体制はより整備された。最新看護索引 Web が更新され充実した資料提供が行えた。また学生の中で生成 AI の利用者が複数確認されたことから、ケースレポート作成時に誤った使用にならないよう禁止事項を明示し、補助的使用にとどめることを周知した。

卒業生の活動支援と動向把握については、演習支援や講師などの活動の場を提供し施設や関連学会での実績が把握できた。また、最新の知識・技術の向上にむけて全学科フォローアップ研修を実施し 371 名の参加者があり実践的な内容で満足度が高かった。

社会のニーズに沿った専門性の高い認定看護師の養成について日本看護協会内での検討に参画した。2028 年度から新たな認定看護師教育課程が始まることとなったため、2026 年度からその準備に着手する。また、認定看護師教育課程教員の教育者としての素養を高めるため、教員研修を企画しプログラムにそってオンデマンド教材等の準備を行った。本研修は 2026 年度から開始することとなった。

今後もより教育活動の質の向上に資する取り組みを継続していく。

### 3. 自己評価項目の達成および取り組み状況

評価段階は、適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1 の4段階である。

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	総括	評価
1) 理念・目的・育成人材像は定められているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念は、変化する保健医療福祉環境の中で「患者中心の志向」「知識と経験を融合した看護実践力」「専門性の追求と臨床に役立つ人材」をもとにし、特定分野における質の高い看護ケアを提供する認定看護師教育を目指している。</li> <li>・教育目的は、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて看護実践ができ、他の看護職者のケア技術の向上に資する認定看護師を育成すると定めている。</li> <li>・3つのポリシーに沿った教育や入試の運営を行っている。</li> </ul>	4
2) 学校における職業教育の特色は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師教育専門課程は、クリティカルケア学科、皮膚・排泄ケア学科、感染管理学科、糖尿病看護学科、認知症看護学科の5学科、いずれも特定行為研修を組込んだ教育課程である。</li> <li>・附帯教育として認定看護師と在宅領域の看護師を対象とした特定行為研修を実施している。</li> </ul>	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者の利便性を高めるためVR教材の活用や遠隔授業の時間を増やすことで集合研修時間を削減した。</li> </ul>	4
4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想が学生・関係業界等に周知がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育理念・目的、「3つのポリシー」を募集要項及び学生便覧に記載し、本校が育成する人材像を周知している。その他、日本看護協会（以下、JNA）ホームページや学校案内、募集ちらし等を公表し、学科の特色をオープンキャンパスや学術集会で広報活動を行った。</li> <li>・学生・研修生に対しては、授業概要及び学生便覧をもとに入学時ガイダンス等を行い、課程長講演により周知した。</li> </ul>	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する看護界のニーズに沿っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護界のニーズに沿った学科を開講している。</li> </ul>	4

## (2) 学校運営

評価項目	総括	評価
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の使命は看護職が持っている様々な実践経験の上に専門性を探求し、自律的に行動し、看護職の力を一層発展させるための教育と学習機会を提供することであり、それに沿って運営している。</li> <li>・本校の課題及び前年度の取組み結果を踏まえて学内全体の 2025 年度重点目標を定めた。</li> <li>・学校教育法の一部が改正され、専門課程を持つ全ての専修学校は単位制へと移行することとなったため、学則で定めている授業時間数を単位数と並記するよう変更した。</li> </ul>	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JNA 規定ならびに学則に基づき年間の事業を企画した。中期事業は 3 年ごとに策定される。</li> </ul>	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等に明文化され、有効に機能しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則のほか、申し合わせ事項等を作成し、業務にあたっている。</li> <li>・認定看護師教育課程と教務課とで役割分担を行い進めた。</li> </ul>	4
4) 人事、給与に関する規程等は整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規程に基づき法人本部と連携して必要に応じて周知、運用を行った。</li> </ul>	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本会内の謝金支払いシステムが刷新されたため業務は教務課が担い、講師本人との連絡が困難な場合は担当教員から連絡を行う等、ルール化し実行した。</li> <li>・特定行為研修指定研修機関事務について、引き続き体制整備を進めた。2024 年度から実施している実習施設への申請取下げ手続きを今年度も実施し 104 件の取下げ手続きを行った。</li> </ul>	4
6) コンプライアンス体制が整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生へハラスメント等の窓口を明示し、JNA 規程を基に対応を行った。</li> </ul>	3
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施の入学試験成績開示は、募集要項に記載され 3 月に実施した。</li> <li>・2025 年度学校自己評価は 2025 年度末に公表した。</li> </ul>	4
8) 情報システム化等による業務の効率化は図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FileMaker(データ管理システム) 講師情報、実習施設 DB の改修をし、活用することで業務が効率化できた。</li> </ul>	4

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務用 PC の入れ替えを 8 月に実施した。</li> <li>・課題であった WIFI ネットワークのインターネット回線を高速化した。</li> <li>・外部講師持参の PC 接続使用による不具合の低下、解消策を拡充した。</li> </ul>	
--	---	--

(3) 教育活動・教職員の育成

評価項目	総括	評価
1) 教育理念等に沿った教育課程の編成等が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者を含む教員会を年 3 回実施し、教育内容や次年度の講師等を協議した。</li> <li>・特定行為研修管理委員会は、特定行為研修に関する教育内容や次年度講師等を協議した。</li> </ul>	4
2) 教育理念、育成人材像や社会のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育到達レベルに達するように学習時間を確保し、時間割の配布及び e ラーニング視聴のスケジュール管理を行った。到達レベルに達する授業構成であるかを毎月検討した。</li> </ul>	4
3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要に記載された教育理念、目標、到達レベルの達成状況をふまえ、カリキュラム編成がされている。</li> </ul>	4
4) キャリア研修・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は授業概要に沿い、また事例検討等を含めた実践的な構成とした。</li> <li>・本課程修了生を演習支援者に起用し、学生のレディネスに沿うよう工夫した。</li> <li>・e ラーニングや遠隔授業を取り入れ、仕事や家庭との両立、感染対策を行った。</li> </ul>	4
5) 関連分野や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員会および特定行為研修管理委員会でカリキュラム、授業評価、成績評価等の審議を行った。</li> </ul>	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業概要に記載された目標、到達レベルを達成するよう授業を行い、学生からの評価を参考に教育方法や評価を見直した。</li> </ul>	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員会および特定行為研修管理委員会において授業評価を実施した。</li> <li>・学生アンケートから授業評価をした。</li> </ul>	4
8) 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員会および特定行為研修管理委員会は外部有識者を構成員として運営し、各構成員から意見を教育事業に反映した。</li> </ul>	4
9) 成績評価の基準は明確になって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は学則第 37 条、細則第 6 条で規定</li> </ul>	4

いるか	され、学生便覧で周知した。	
10) 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	・本校は「認定看護師教育機関」の審査要項により承認された教育課程で、規定の指導体制およびカリキュラムに基づき各分野（学科）とも資格取得に向け卒業時に認定看護師審査の受験資格を付与している。2021~2024年度まで認定審査の合格率は100%であったが、今年度は認定審査不合格者が1名あった。	4
11) 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	教員は、特定行為研修受講者が1名、特定行為研修指導者講習会を4名が受講した。	4
12) 関連分野における連携において優れた教員（本務・兼務含）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	・5分野の教育が安定して行われるよう、教員確保のための医療機関との調整などを行った。非常勤講師として各分野において専門性の高い講師を確保し授業を行った。	3
13) 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	・専門分野学会やセミナー参加など業務に支障がない限り、出張または研修扱いとし教育に活かした。	4
14) 職員の能力開発のための研修等が行われているか	・情報管理研修、キャリアアップ研修、ハラスメントやコンプライアンスに関する研修、業務遂行に関連した説明会、健康教育などが行われた。昨年度から開始した教員臨地研修は、1名が月1回病院からの依頼で創傷外来を実施した。	4

#### (4) 学修効果

評価項目	総括	評価
1) 資格取得率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学科、工夫しながら認定審査対策（模擬試験、web勉強会）を実施した。</li> <li>・2025年度の認定審査は感染管理学科の合格率が96.7%であったため、次年度は合格率100%を目指す。</li> </ul>	4
2) 退学率の低減が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談窓口を設置し学生に周知した。</li> <li>・eラーニング期間中の学習計画の助言や進捗確認を行い、必要時個別対応を行った。</li> <li>・授業時間を多く確保が必要な学科については集合研修開始時期を1か月早めている。</li> <li>・臨地実習中は個別面談により精神的サポート</li> </ul>	4

	も行った。 ・2023、2024年度と退学者0であったが、今年度は1名が自己都合により退学となった。	
3) 卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか	・5学科ともに卒業生の社会的な活躍および評価を把握している。 ・卒業生は学術集会で発表、本校の非常勤講師や演習支援者、実習指導者など指導的立場で専門性を発揮していた。	4
4) 卒後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	・教育課程を修了した認定看護師らの発表等を確認し、その効果を把握するとともに教育活動への改善に活用している。	4

(5) 学生支援

評価項目	総括	評価
1) 学生の安全管理のための取組等が行われているか	・学校安全会議を3月に実施した。 ・高木剪定、樹木の管理、伐採等を実施し、4月に校内の監視カメラ(9台)を新規に更新し、防犯上の安全措置の向上を図った。 ・衛生委員会との協働による温度、湿度の状況観測と執務環境の管理に努めた。	4
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	・学生便覧に学生相談窓口を明示し、今年度は学生からの相談1件に対応した。	3
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	・履修免除対応者 2025学生151名、うち5名履修免除科目受講した。 ・実習用通学定期券購入事務手続き対応 273件(82名) ・給付金受給申請手続き24件 ・助成金申請手続き0件 ・各種奨学金手続き 在学猶予1件 ・奨学金等受給申請のための証明書発行14件	4
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	・学校保健会議を2月に実施した。 ・学生の健康管理に関しては、学校側と校医が学生生活継続に影響を及ぼす可能性のある病態について、状況に応じた適切な対処や支援を行う態勢をとっている。 ・健康診断事後措置として学生に校医の判定結果を渡し、健康管理の維持・見直しを促した。	4
5) 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム	・修了者に対して各専門領域学会や研修会等への参加を推奨し、キャリアアップ研修、フォロー	4

等が行われているか	ーアップ研修として再教育の場を提供した。	
6) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔教育を充実するため、VR教材が配信可能なeラーニング配信システム開発を行った。</li> <li>・管理部門では、以下のとおり実施した。</li> <li>・エアコンの直風、冷風集中化には風除けやりモコン操作によるスイング風向の説明書きを貼り、予防策を教室内に案内表示した。</li> <li>・図書館部門では、以下のとおり実施した。</li> <li>・集合研修期間の7月～9月にケースレポート発表前の12月を加えた計4か月について、19時まで開館時間を延長した。学生利用者数は延べ997人（前年度比110.9%）、夜間の在館者は平均1.15人であった。</li> <li>・郵送貸出は1月迄で5件の申込みがあった。</li> <li>・自宅からも閲覧可能な電子ブック8,112タイトルを提供したが、閲覧数は減少している（4月～1月、前年度同月比78.8%）。理由として周知の不足が考えられ、学生へのアンケート（回収率53.7%）では、電子ジャーナル・電子ブックが閲覧できることを知らないとする学生が国内資料20.0%、海外資料72.5%という結果であった。</li> <li>・LMS（学習管理システム）の改修により、予約図書を取り置き等、学生への個別連絡が迅速に行えるようになった。</li> </ul>	4
7) 他校との連携によるキャリア教育職業教育の取り組みが行われているか	・認定看護師教育課程教育機関連絡会の事務局として他教育機関との連携を図った。	4

(6) 教育環境

評価項目	総括	評価
1) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度に新たなeラーニングシステムへ移行し、学習支援システム（LMS）環境を整えた。これによりVR教材の活用、受講できなかった授業の動画視聴などが実施しやすい環境となった。</li> <li>・管理部門では、以下のとおり実施した。</li> <li>・4月に雨天時の転倒防止対策として玄関前の防滑工事、6月の夏前に図書館2階空調機器更</li> </ul>	4

	<p>新工事を各々実施し、環境改善を施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備に関しては短期的には設備の年間点検計画策定と日常・定期点検の実施、不具合への即時対応の体制を整備することで対応し、中長期的には経過観察とそれに基づく修繕計画の策定、確実な実行が経年劣化の加速化・多発化の前で、安全性・快適性担保の鍵と考える。</li> <li>・学生に提供の課金コピー機の利用で（紙による複写や印刷だけでなく）、各学生が著作権など知財に留意しながら、必要に応じ、自分で作成した資料やグループワークの成果など学習した内容を電子スキャンして容易に持ち帰るしくみを提供している。</li> <li>・学科P Cの入れ替えを行い、総使用台数を増加させた。</li> <li>・図書館部門では、以下のとおり実施した。・看護を中心とした、和洋合わせて約 55,000 冊の図書、24,000 冊の製本雑誌を所蔵、国内外の文献検索データベース等を 9 種提供している。</li> <li>・シラバス掲載の図書は図書館で所蔵し学生に提供できるよう努めている。(2025 年度シラバス掲載図書 19 冊、電子ブック 3 タイトル購入、認定看護師教育課程の各学科から希望があった図書 56 冊、電子ブック 5 タイトルを購入)</li> <li>・利用者用 PC の入替・電源増設などを行い、個人が集中して学習できる環境を整備した。</li> </ul>	
2) 学内外の実習施設は十分な教育体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習施設は認定看護師教育機関審査要項に沿って選定した。</li> <li>・実習指導者会議では、指導者と実習方法や指導体制を確認し、安全と教育の質が保たれるよう実習環境を整えた。</li> </ul>	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4/1 時点の在籍者にに基づき自営消防組織を再編し、学生登校前の 6 月に教職員の消防訓練（自衛消防及び消火器、屋内消火栓、通報、エアーストレッチャー訓練）・学生避難誘導訓練を行い、同時に防災品豆知識展の開催、安否確認ツールの取扱い方法の再確認を実施した。</li> </ul>	4

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	総括	評価
1) 学生募集活動は、適切に行われているか	・例年通り全国 300 床以上の施設等への募集要項及び出願書類一式を送付、ホームページ掲載、個別問合せ対応、入試過去問の送付を行った。学校見学希望者は 0 名だった。	4
2) 学生募集活動において資格取得等の情報は伝えられているか	・応募は 327 名、受験者は 311 名であった。 ・募集要項等に取得可能な資格情報は明記されている。問い合わせがあった際には丁寧な対応を心掛け、内容により課程と教務で回答した。 ・認定看護師教育課程と特定行為研修で取得できる区分の違いに対し、募集要項を用いて説明した。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか	・ある教育機関に比べ、多少安価であることを確認している。	4

## (8) 財務

評価項目	総括	評価
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	・JNA 会員による会費収入が基盤となるため各世代における会員数の増加が喫緊の課題であり、組織を挙げた会員数増加策について具体的な検討、取組に着手した。また、学校として財務基盤強化のため収支の精緻化を行っている。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	・JNA として毎年度の本会重点事業をもとに事業企画の立案と予算獲得計画の原案を作成し、常務理事会、理事会などの役員会の意思決定を経て、年度の予算化と事業化を実現している。	4
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	・監事と監査法人による監査を実施し、各指導のもと協議検討を重ね、改善を行っている。 ・年 2 回の監査(会計及び事務)並びに監事による各部の所属長への業務に関するヒアリングの実施等により実体把握、解決に向けた取組を実施した。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	・財務情報は、収支予算書、決算報告を「協会ニュース」、報告書冊子、JNA ホームページに掲載し、所定の手続きに則って総会の代議員、会員、一般に向けて毎年情報開示している。	4

## (9) 法令等の遵守

評価項目	総括	評価
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	・各種会議は適正に運営され、学校保健会議では学生の健康管理に努めた。新法の施行、法令の改正には適宜適切に対応し、手続き、進め方には施設管理会社の協力を得ながら行った。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	・「コンプライアンス研修」受講(全職員)・「情報管理研修」受講(全職員)した。情報管理状況点検及び内部監査を職員個人、各部署を対象に実施し指摘はなかった。 ・法令に抵触する可能性がある場合には、適宜、顧問弁護士相談を実施する。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	・学校評価部会内部で部署間の調整や情報共有を図り、問題解決に協力している。 ・職業教育評価機構による定期的な拡大研修会を職員へ案内し、予備知識を補強している。	4
4) 自己評価結果を公開しているか	・2025年度自己評価報告書と本校の情報公開は2025年度末に公開した。	4

## (10) 社会貢献

評価項目	総括	評価
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	・近隣の福祉施設の就労支援商品(パン)の校内販売や講師用弁当等は地域資源を活用した。図書館を含め対外的な施設案内や各国からの看護職の訪問を受け入れ、また、若い世代へ看護を知る機会として自治体を通じた児童訪問の機会を作り、JNA キャラクターかんごちゃんグッズを配布した。 ・本校学生以外の看護職、医療関係者、看護学生等に対して、図書館サービスを提供した。無料の資料の電子化により、複写件数は減少しているが、改修した最新看護索引 Web の検索数は増加した。	4

